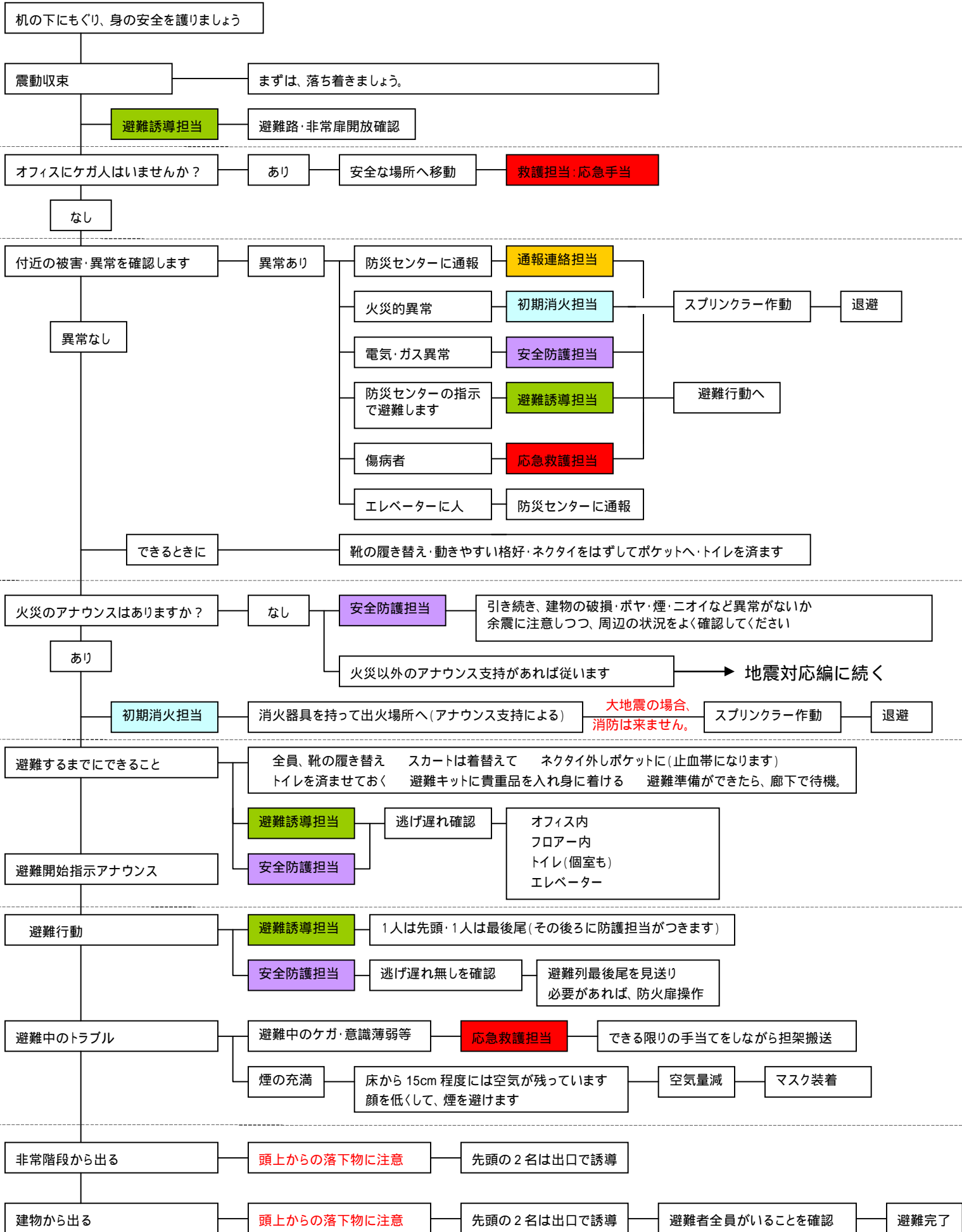


地震 緊急避難編



< 注意事項等 >

高層階の場合、数秒/振動の幅の大きいゆったりした揺れが、地上に比べて数十秒、長く続く場合があります。必ず収束しますので、何かにつかまって耐えてください。

傷病者が、ものの下敷きになっていたり、意識を失っていたりする場合があります。大雑把に問いかけるだけでなく、お互いが、周辺をよく見ながら確認します。

消火器が地震で転がっていつまわっている場合もあります。落ち着いて、転がっていきそうなところを探します。

エレベーターに閉じ込められている人がいたとしても、自分で救出することは、専門性を要し、危険が多いので、止めます。声が届く範囲であれば、全ての階のボタンを押したか、非常コールはつながるか、何人乗っているか、けが人はいないかを、確認し、防災センターに連絡します。「必ず助けが来る」ことをエレベーターに伝えます。

避難訓練の際、エレベーターの管理会社などから、脱出・救助の講習を受けられるようであれば、受けてください。

大地震の場合、消防は来ません(来られません)。しかし、初期消火に失敗し、スプリンクラーが作動した時点で、消火活動は、危険が多いので中止します。**装備品は、本格的な消火活動に対応できません。**初期消火担当の方が犠牲になることは避けなければなりません。

< 使うもの >

パール: 戸が開かなくなった場合に、こじ開けに使用

防火管理担当用拡声器(電池付)
救急セット
担架またはキャリーマット

消火器具: 粉末式 ABC 消火器(常設では少ない、または遠い場合)
誘導者用誘導灯
誘導者用拡声器
安全防護担当用工具(?): 「安全措置」でどの程度までいじるのか
安全防護担当用ライト
初期消火担当用セット
ヘルメット・防煙マスク・グローブ・ゴーグル・救急セット

貴重品バッグ

ハンカチ
水
グローブ(軍手)
防煙マスク
ライト(1ユニット4~5人に1つ程度)

ヘルメット・ゴーグル

天井の表面を覆っている部材・ガラス等が落ちてくる危険もあります。先頭の二名は、頭上に注意して出た後、出口両サイドに立ち、お互いの頭上を見ながら、落下物がない限り、避難者を誘導します。全避難者がその都度頭上を確認すると、全体の避難が遅くなります。避難列最後尾者は、自分が最後であることを伝え、出口の2名も避難します。